

# 無機質な空間を和ませる水盤を持つ 大理石の大テーブル

立ち食いそば 港屋



設計：キャップ 常川貴扶 武井博義  
施工：フロンティアインターナショナル  
時田賢也



大テーブル越しに厨房方向を見る。水盤中央には季節の花が生けられ空間を彩る

## 店の内外を繋ぐ装置

すべてはこのテーブルの大きさ、レイアウトでこのお店のデザインの特徴が決まった。もともと13坪という限られた空間を「立ち食いそば屋」にしたいということ、モノトーン（特に黒）、中央にテーブルが一つあればいいというオーナーの要望から始まった。そこで通路幅とそのテーブル周辺に並ぶ客数のバランスで黒い御影石を張ったテーブルの大きさが決まり、それを中央に配した。店舗は交通量の多い交差点の立地であるため、落ち着いたを保つために開口部を横一本のスリットのみに制限している。

テーブルの中央には大きな薄い水盤が設けられ、その中央に季節の花々を飾ることで水盤がその色を映しこみ無機質な空間を和ませている。そしてその水が壁にのみ込んだテーブルの一つの角から外部へ流れ落ち、お店の内外部をつなぐ唯一の存在になっている。

（常川貴扶／キャップ）



水盤のある大テーブル席全景

床面積：44.67㎡（うち厨房12.2㎡）  
客席数：20席  
竣工：2002年7月  
所在地：東京・港区（03年5月号）  
撮影：梶原敏英

